

「舢倉島」

石川県輪島市

島の中央部にある竜神池を中心にして二度の火山噴火によって生成された島といわれ、能登半島と同じく火成岩でできた島である。島の交通は自転車か徒歩のみだが、小さな島であるため歩いて1時間で一周することができる。集落は島の東の舢倉島港のある海岸に並ぶ。

本島周辺は対馬海流の影響により、好漁場であることから島渡りの歴史は古く、島の南西端に位置する弥生時代後期や平安時代の複合遺跡である「シラスナ遺跡」から、当時の製塩具などの土器やアシカや牛の骨などが出土している。奈良時代には国守大伴家持が能登を巡行された時の長歌が万葉集に載っており、舢倉島について「沖つ島 い行き渡りて 潜くちふ 鯨珠もが 包みて遣らむ」と詠んでいる。

舢倉島に渡島して、漁業を営むのは輪島市海士町の漁業者である。海士町は、鐘崎（福岡県宗像市）から渡ってきた海士の集団がつくったとされており、この地域では海士とは女性の海女を指す。

また、舢倉島は古くから神の住む聖地といわれ、島の総本社である奥津比咩（おくつひめ）神社をは



昭和30年代の島の集落

じめとして、恵比寿、金比羅、伊勢など計7社が建立されている。神社や海岸には、70程の石積み（ケルン）が見られる。石積みが竜神様の供養となりエゴ草が多く採れるとも、江戸時代に起きた海難事故後、低い島を少しでも高く見せて、海上からの標識になるよう積み上げたともいわれている。アワビ採取の潜水場所を覚える目印としても利用されている。



昭和40年代の島の運動会

みどころ



- バードウォッチング：舢倉島は、300種を超える渡り鳥の中継地で、本土ではほとんど見られない種も渡来する。春は5月上旬、秋は10月上旬が最盛期で、島の中央部には野鳥観察舎がある。
- へぐら愛らんどタワー：舢倉島簡易水道の高架配水塔整備にあわせ、下部スペースを有効利用した施設。渡り鳥や、舢倉島・輪島の名所、伝統芸能等をパネル展示している。また、5階バルコニーからは全島がパノラマ展望できる。